

科目区分：人間科学科目

授業科目名	人間の科学（母子のきずなの科学：胎児から新生児まで）				学期	曜日	校時
英語名	Human Sciences (Mother-Infant bond: fetus to neonate)						
担当教員名	篠原 一之 他 3 名	単位数	2 単位	必修 選択	前期	月曜日	3 校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>最近、思春期児童による衝動的な暴力行為や母の子虐待などが社会的問題として注目されている。その背景には、胎児期および新生児期の母子間コミュニケーション不足に起因する子の情動発達の歪みや母の母性形成不全が考えられている。そこで本講義では、胎児期および新生児期における母子間のきずなの形成の重要性を概説し、その仕組みを最新の科学的知見をもとに紹介する。さらに、子の健全な情動発達の促進と乳幼児虐待の予防に向けた最近の取り組みを紹介する。</p>							
テキスト、教材等							
教科書を用いず、授業計画にそったプリント・資料を配付する。 参考図書など適宜紹介する。							
対象学生	成績評価の方法			教員研究室			
全学部	試験は行わず、授業中のディスカッション、レポート等を考慮して、授業にいかに意欲的に参加しているかを評価する。						
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子のきずなの重要性：胎児期や新生児期といった発生初期における母子間のコミュニケーションの重要性を概説する。 2. 胎児期の母子間コミュニケーション：胎児期にも母子は、声、神経性因子、液性因子を介した母子間のコミュニケーションが存在することを理解し、その重要性を考える。 3. 新生児期の母子間コミュニケーション：新生児期における表情、声、匂い、接触を介した母子間のコミュニケーションが存在することを理解し、その重要性を考える 4. 母性の形成における子の役割：母性の形成における子の役割を理解し、虐待の成因について考える。 5. 実験動物における母子間コミュニケーション：霊長類やげっ歯類における母子間のコミュニケーションについて理解し、種を超えた母子間コミュニケーションの重要性を考えるのと同時に、ヒトならではの母子間のあり方について考える。 6. 母子間のきずなの形成を支援する最近の取り組み：母子間でどのような情報が交わされているのかを理解し、それを応用した母子間コミュニケーション支援のための最新の取り組みについて紹介する。 							
<p>オフィスアワー（質問受付時間）月曜日 14：00-15：00</p>							